

二〇二六年度 成城大学大学院 文学研究科Ⅰ期 入学試験問題

国文学専攻 博士課程前期

《国文学・国語学・漢文学》

注意事項

- 1、問題はA・Bの二種類からなる。両方とも解答すること。
- 1、Aの問題では、七分野（古代文学・中古文学・中世文学・近世文学・近代文学・国語学・漢文学）から三分野を選び、さらにその中のイ・ロいずれかを選んで解答すること。ただし、受験者の専門分野の問題は必ず解答しなければならない。
- 1、Aの解答用紙（表と裏とあり）で、選択しなかった分野の解答欄には、大きく斜線を引いてそれを明示すること。
- 1、Bの問題では、解答用紙の「選択した分野」の欄に、自分の専門分野を明記すること。（例、「B・近代文学」）。
- 1、以上二枚の解答用紙それぞれに、受験番号を忘れずに記入し、たとえ白紙であっても必ず提出すること。

以上

# A

次の七分野の問題から、三分野を選んで解答すること。ただし、受験者の専門分野の問題は必ず解答しなければならない。なお、各分野から選択した問題の記号を所定の欄に記し(例、「中古文学イ」)、選択しなかった分野の解答欄には、大きく斜線を引いてそれを明示すること。

## A・上代文学

次のいずれか一つを選んで、十行以内で説明せよ。

- イ 古事記上表文について
- ロ 柿本朝臣人麻呂歌集について

## A・中古文学

次のいずれか一つを選んで、十行以内で説明せよ。

- イ 題詠について
- ロ 日記文学について

## A・中世文学

次のいずれか一つを選んで、十行以内で説明せよ。

- イ 口風琴花伝について
- ロ 連歌式目について

## A・近世文学

次のいずれか一つを選んで、十行以内で説明せよ。

- イ 近世の実録体小説について
- ロ 俳諧史における蕪村の位置について

## A・近代文学

次のいずれか一つを選んで、十行以内で説明せよ。

- イ 国木田独歩について
- ロ 「徳江抽斎」について

## A・国語学

次のいずれか一つを選んで、十行以内で説明せよ。

- イ モーラと音節の違いについて
- ロ 母音の広狭について

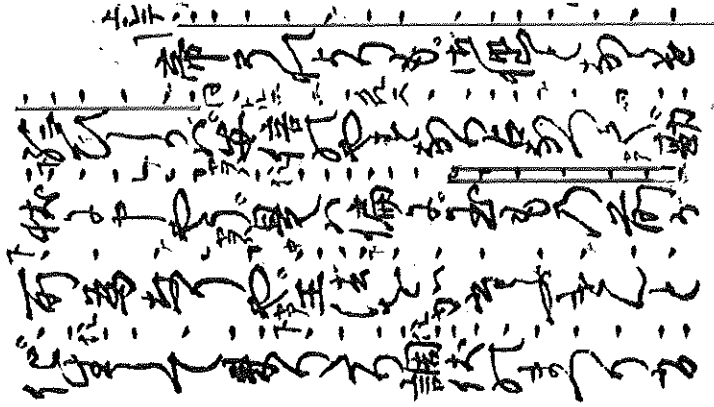
## A・漢文学

次のいずれか一つを選んで、十行以内で説明せよ。

- イ 白氏文集白の受容について
- ロ 説話と漢文学の関係について

(B 中世文学)

次の変体仮名を読んで、後の問いに答えよ。



問一、傍線部を翻字せよ。

問二、傍線部を現代語訳せよ。

問三、二重傍線部について知るところを述べよ。

問四、これは、ある作品の一部である。この作品名を答えよ。

問五、この作品の典拠との関係を論ぜよ。

## B・国語学

次に示すのは、伊藤たかね著『言語を科学する』（朝倉書店）からの一節である（適宜、変更を加えた箇所がある）。次の文章を読んで、以下の間に答えなさい。

東京方言では、以下のように (1a) と (1b) のアクセントが異なる（音の高低を H (high) と L (low) で表示する）。

- (1) a. 長野市 (LHHL)      b. 長野氏 (HLLL)

このときに、「地名と人名で違うのだろうか」と考えてみる。<sup>(1)</sup> 単独で発音する場合、地名と人名に差がないことにもかかわらず、<sup>(2)</sup> 「市／氏」などがついている場合について「金沢市／金沢市」「相模原市／相模原市」などの長い語も視野に入れ、どこで音が下がるかに着目すると、以下のような仮説が立てられる。

【仮説1】地名は (a)、人名は (b) のパターンになる。

(a) 「市」で下がる（語末が HL となる）。

(b) 語末から3モーラ目で下がる（語末が HLLL）となる。

例示なのでごく限られた例で話を進めているが、実際には同様の多くの例を観察し、その事実から仮説が導き出されなければならない。「秋田市／秋田氏」「山口市／山口氏」「福知山市／福知山氏」など、数多くの類例から、妥当性のある仮説として仮説1を立てることができる。

しかし、少し観察の幅を広げてみると、常に (1) のようなパターンになるわけではないことがわかる。

(2) a. 福島市／福島氏      b. 市川市／市川氏

(3) a. 広島市／広島氏      b. 鴨川市／鴨川氏

(2) は (1) と同じパターンになっているが、<sup>(3)</sup> (3) は【仮説1】に反している。したがって、仮説1は (3) のような例によって反証されることになる。

さて、(1) ～ (3) の例で、「市／氏」を除いて発音するとどうなるだろうか。

先に述べたように「市／氏」がなければ、地名と人名が同じアクセントとなる  
ことがわかる。この「市／氏」を除いた発音と、(1)～(3)の発音とを比較する  
と、(4)「市」と「氏」が異なる働きをしていることに気づくのではないだろうか。  
これを踏まえると、(5) 仮説2を立てることができる。

問1 傍線部(1)はどのようなことか。具体的に説明しなさい。なお、音の高低に  
ついては H (high)と L (low)で表示すること。

問2 傍線部(2)に含まれる「市」や「氏」は、形態的な観点からすると何と呼  
ばれるか。最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

イ 句    ロ 接辞    ハ 語    ニ 接語    ホ 音素

問3 傍線部(3)はどのようなことか。具体的に説明しなさい。なお、音の高低に  
ついては H (high)と L (low)で表示すること。

問4 傍線部(4)について以下の問に答えなさい。

(i) 傍線部(4)を具体的に説明するとどうなるか。音の高低については H (high)  
と L (low)で表示すること。

(ii) 「市」と「氏」のうち、アクセントを持っていると言えるのはどちらか。根  
拠を示しながら説明しなさい。

問5 傍線部(5)に「仮説2」とあるが、これは仮説1を部分的に改変したもの  
となる。どこをどのように変えたらよいか述べなさい。

問6 アクセントの観点から「市」と同じ振る舞いをする他の形式の例をあげ、  
これについて同じ振る舞いであることを具体的に説明しなさい。

以上